

PRESENTATION

2008年9月期 決算説明会

2008年11月21日

株式会社ウェッジホールディングス

代表取締役社長 田代 宗雄

2008年9月期のポイント

■ 新経営体制の始動と展開

- APFグループの支援の元、従来のマネジメントと協働する新体制が始動
- 新ビジョン「Creative Stage Company」を発表、コーポレートイメージを刷新し、事業拡大へ向けた新展開を開始

■ 経営改革と黒字転換

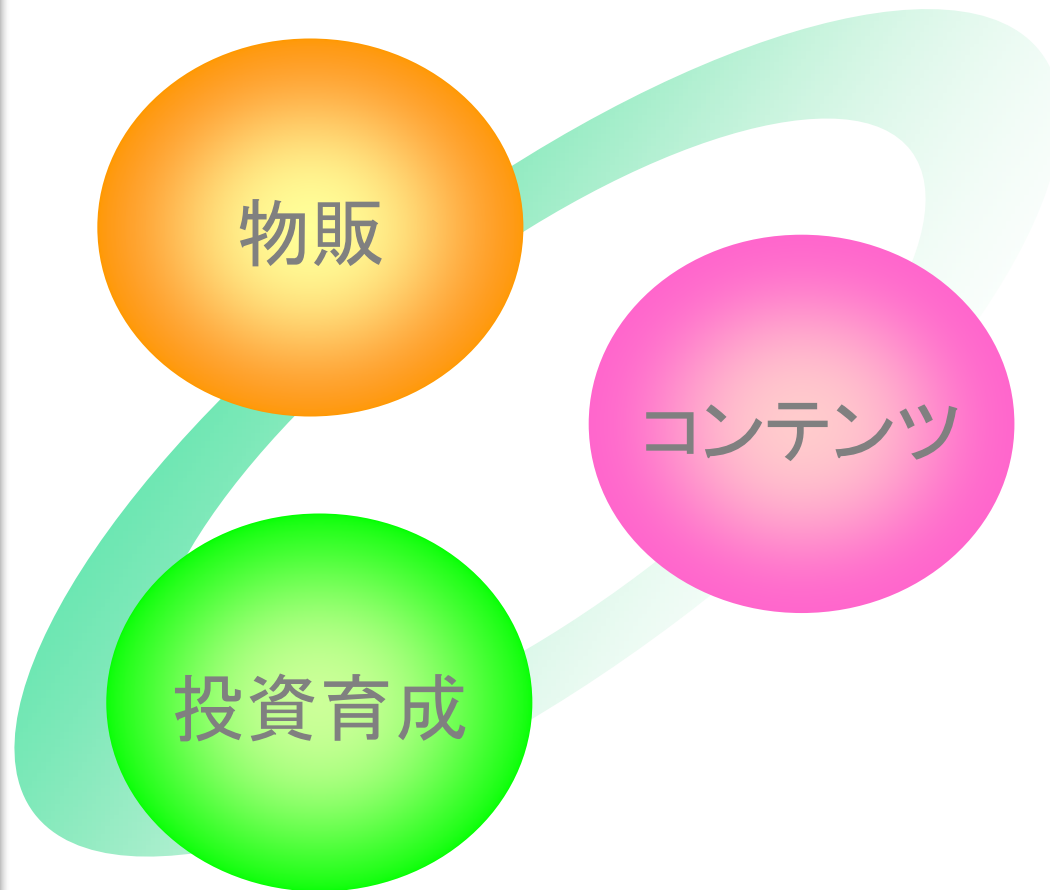
- コンテンツ事業の収益性改善、物販の赤字幅の大幅な縮小に加え、投資育成事業が成長、新たにグループの収益を支える事業になる
- 営業利益・経常利益・純利益ともに黒字化を達成

■ 優良資産の増加

- 前期末から不良在庫の削減や評価減の徹底など、資産内容を改善、B/Sの健全性が大きく向上
- 投資育成事業により持分法適用となったグループリース社の株式からは、安定的な持分法適用利益が期待でき、高い配当もキャッシュフローを改善することに

事業概要

ウェッジホールディングスの事業領域



■ 物販事業

- エンジン・たのみこむ等、キャラクター関連商品事業

■ コンテンツ事業

- 編集・出版・映画・アニメーション・音楽・タレント・メディア関連事業

■ 投資育成事業

- ウェッジHD: 投資組合運営事業
- エンジン: 国内外への投資事業

3事業体制による事業ポートフォリオの拡大

ウェッジホールディングス グループ

グループ会社名	株式保有率	持分区分	備考
(株)ウェッジホールディングス			コンテンツ事業、物販事業、投資育成事業
(株)エンジン	100%	連結子会社	物販事業、投資育成事業、コンテンツ事業、
(株)エースデュースエンターテインメント	100%	連結子会社	コンテンツ事業 (10月1日エースデュースコードと合併、株式会社エースデュースに)
(株)エースデュースコード	100%	連結子会社	コンテンツ事業 (10月1日エースデュースエンターテインメントと合併、株式会社エースデュースに)
(株)ラディクスモバニメーション	100%	連結子会社	コンテンツ事業
(株)スピニング	100%	連結子会社	コンテンツ事業 (8月1日新設)
グループリース (Group Lease PCL)	28.75%	持分法適用会社	投資育成事業による投資先会社(リース事業・タイ王国一部市場上場・2008年3月より持分法適用に)

2008年9月期の 事業トピックス

新経営体制による経営改革の実施

■ APFグループの資本参加をもとに経営体制を変更

- 執行役員会を中心に前期までの経営陣との協働体制を確立

■ ハンズオンでの経営参加と改革の実行

- 経営管理体制の整備(本部スタッフの増強、制度整備やリスク管理・契約管理等の強化)
- 事業支援の実施(バックオフィスの統合化、事業部門・子会社に対する経営支援強化等)
- 組織再編の実施(子会社増資・合併・事業譲渡など)



CIの実施

■ 新ビジョン「Creative Stage Company」と共に コーポレートイメージ、ホームページを刷新



物販事業の挺入れ



■ ワールドキャラクターストア・ 「Blister」が原宿に移転オープン

- 2008年春、マニア層からエントリー層までカバーする商品構成とし、Web通販、卸売と共に展開する物販事業の顔をリニューアル
- 移転による営業中断のため売上は低下するが、販管費の削減を行うことで採算性は大きく改善



映画事業への投資拡大

■ 公開映画作品数の増加

- 小規模作品が中心に、収益安定性の高い領域の作品を多数製作
- 作品数は前期比較で2.7倍、出資金額は4.8倍になり、主要な作品のDVDパッケージ販売が展開される2009年度の売上へ貢献を見込む



ACEDEUCE inc.

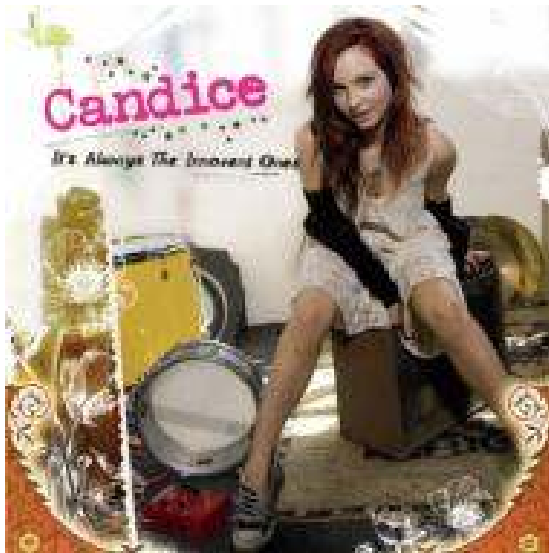
Wedge Holdings

新設子会社による事業領域の拡大



■ 8月1日株式会社スピニングの設立により音楽事業を拡大

- アメリカ・カナダのガールズ・ロックを中心としたアーティストの日本国内でのプロデュース、PRから、音楽CD販売、音楽配信を手がける
- 最初のアーティストCandiceの「It's always a innocent one's」は9月30日にリリース、その後のラインナップも順調で好調な立ち上がりとなる。



投資育成事業の急拡大



■ タイ王国一部市場の上場会社、グループリース社が下半期から持分法適用会社に

- 2008年9月期中の同社からの配当収入は約61百万円、キャッシュフローの改善に大きく貢献
- その他APFグループの協力を得て行った短期投融資案件も安定的に利益を生む高収益事業に

※グループリース社
タイ一部証券市場上場 コード GL
ホームページ（英語）
<http://www.grouplease.co.th/en/index.html>

2008年9月期の経営成績

経営成績

■ 連結経営成績

(単位:百万円)

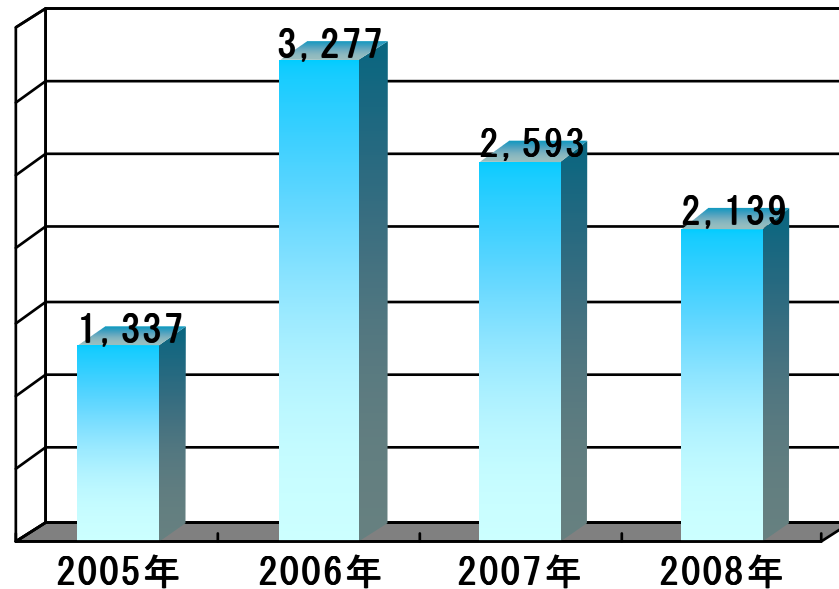
	2008年9月期	2007年9月期 (参考)	増減額	対前年比
売上高	2,139	2,593	▲ 454	82.5%
営業利益	62	▲ 265	327	—
経常利益	146	▲ 273	419	—
当期純利益	81	▲ 525	606	—

■ 個別経営成績

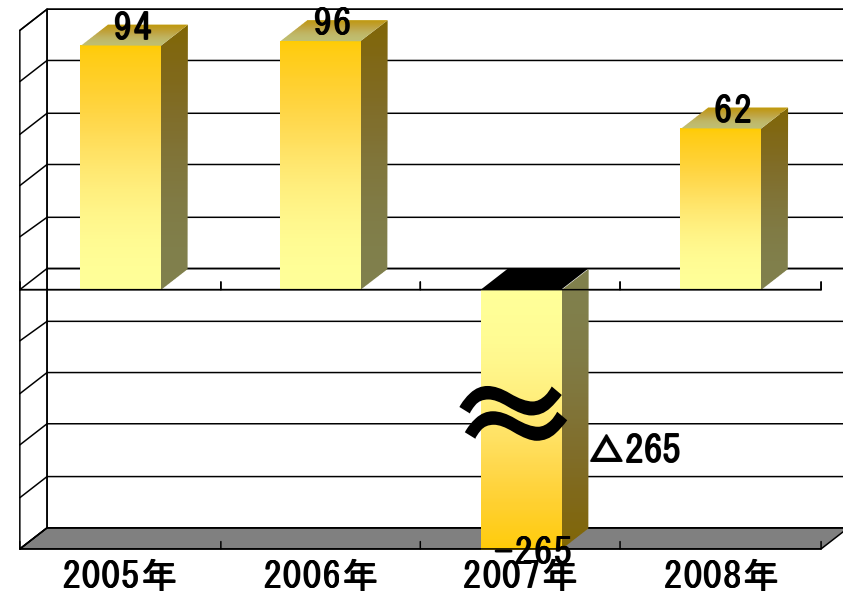
	2008年9月期	2007年9月期 (参考)	増減額	対前年比
売上高	898	672	226	133.6%
営業利益	90	5	85	1800.0%
経常利益	104	25	79	416.0%
当期純利益	97	▲ 611	708	—

連結経営成績の変化①

【売上高】



【営業利益】

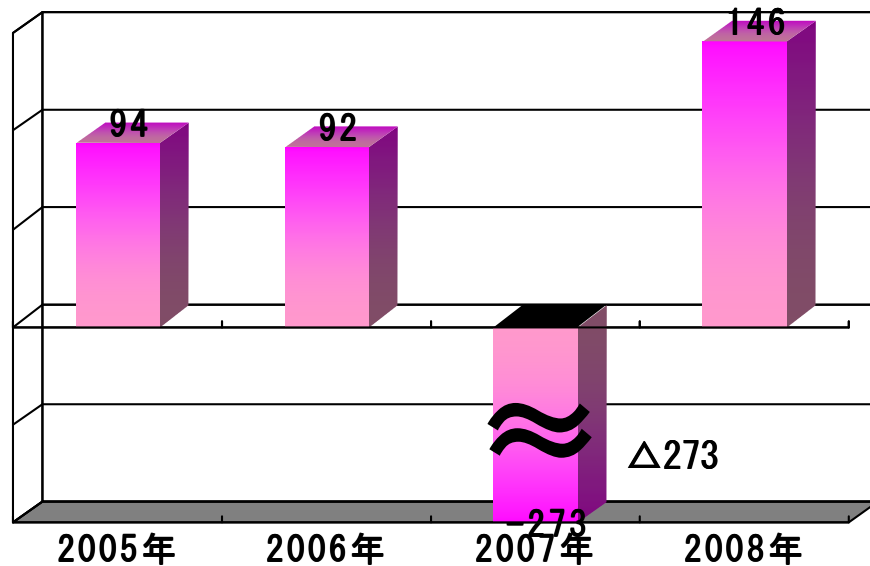


■ 売上高は減少するも営業利益は大幅に回復し黒字化

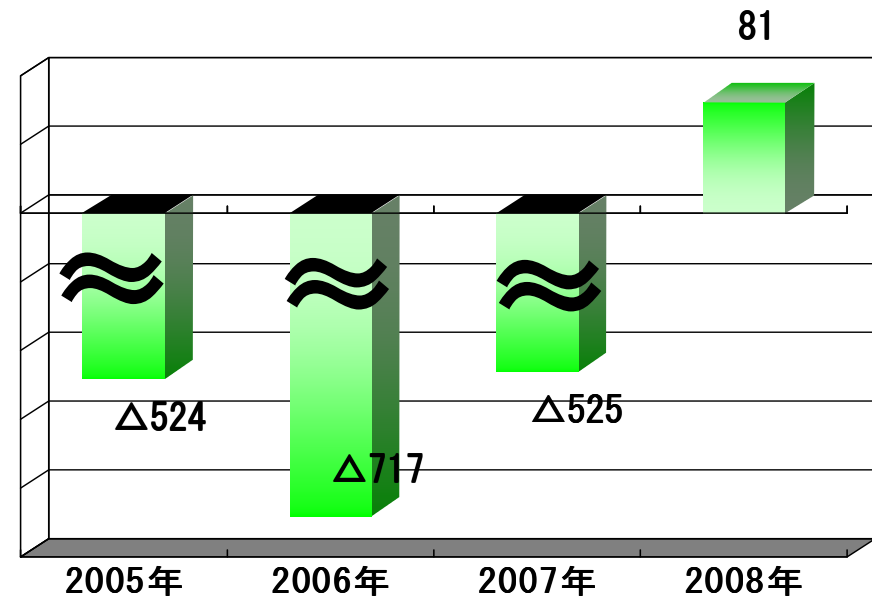
- 物販事業で採算性重視の経営方針に転換、販管費削減につとめる
- アニメーション「アップルシード」の制作中止による売上・利益低下の影響を、収益性の高いカードゲーム事業や投資育成事業の伸びが補う

連結経営成績の変化②

【経常利益】



【当期純利益】



■ 経常利益・純利益とも大幅な黒字転換に成功

- 持分法適用利益により経常利益は大幅に黒字化
- 経営管理の徹底で特別損失が大幅減、純利益でも4年ぶりの黒字転換に

キャッシュフローについて

単位（百万円）

	2005年9月期	2006年9月期	2007年9月期	2008年9月期
営業活動によるキャッシュフロー	△91	△396	△183	38
投資活動によるキャッシュフロー	△156	△70	△155	△1,382
財務活動によるキャッシュフロー	△22	743	716	△200

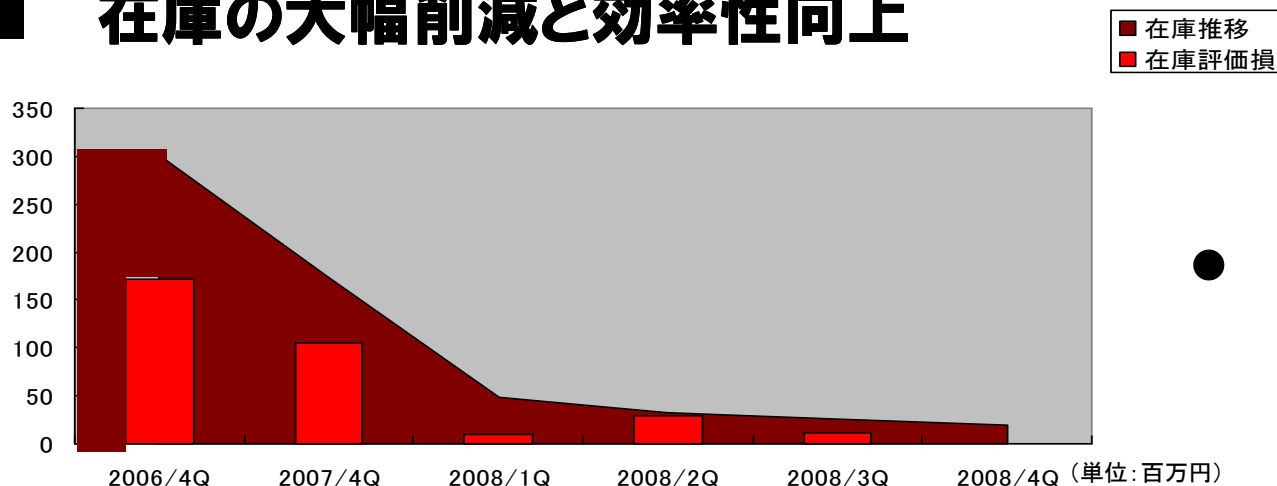
■ 営業キャッシュフローはプラスに転換

■ 積極的な投資実行と負債の一部返済

2008年9月期の 経営・財務トピックス

物販事業の赤字の大幅削減

- 物販事業の営業赤字は、1億円以上減少
- 在庫の大幅削減と効率性向上



- 過剰だった在庫を業界標準値にまで削減しB/Sを健全化。

■ 販管費の削減と経営資源の集約

- 店舗の移転・在庫の適正化等に伴う固定費の削減などで物販事業の販管費は対前年24%減と大幅に削減される

※事業譲渡などの変動要因を調整後の実績値

- 10月以降、物販事業を株式会社エンジンに集約することで、商品開発力・営業力の向上へ

コンテンツ事業の収益性の大幅向上

- **コンテンツ事業の営業利益は51百万の赤字から153百万の黒字に。**
- **特別損失は前期の6分の1近くに減少**
 - 新たに設立された投資委員会等の機能によりコンテンツ投資のリスク管理を徹底。前期、コンテンツ事業のみで2.5億円発生した特別損失は6分の1近い4400万円になり、投資回収率が大幅に向上。
 - 当期の特別損失は、2008年9月に「アップルシード」の制作中断に伴い訴訟提起と共に損失を計上したアニメーション事業1件のみ。契約管理の徹底が奏功し損失額は限定的に。
- **収益性の高い事業の規模が拡大**
 - カードゲーム事業のロイヤリティ収入が増加。新タイトルの営業拡大も順調に進み、コンテンツ事業の活性化を主導。

投資育成事業の成功

■ グループリース社への投資による業績への貢献

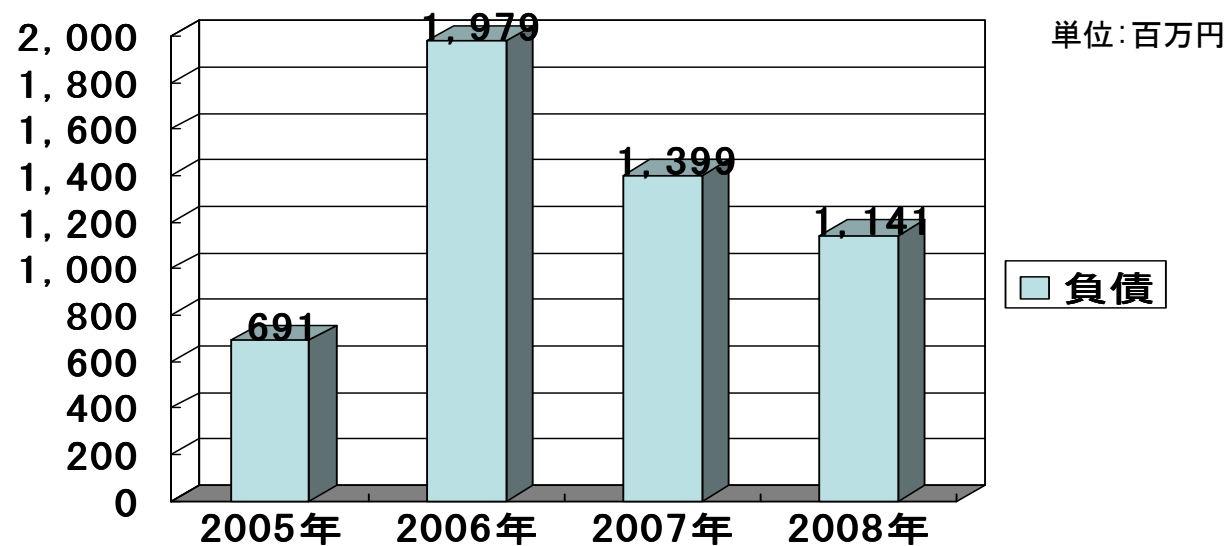
- 下半期よりグループリース社が持分法適用となり、持分法利益は63百万円計上される
- 同社からの配当も61百万円となりキャッシュフロー面でも大きな貢献（持分法適用により、連結決算上は消去されるためP/L上の反映はなし）

■ 短期投融資案件による収益が増加

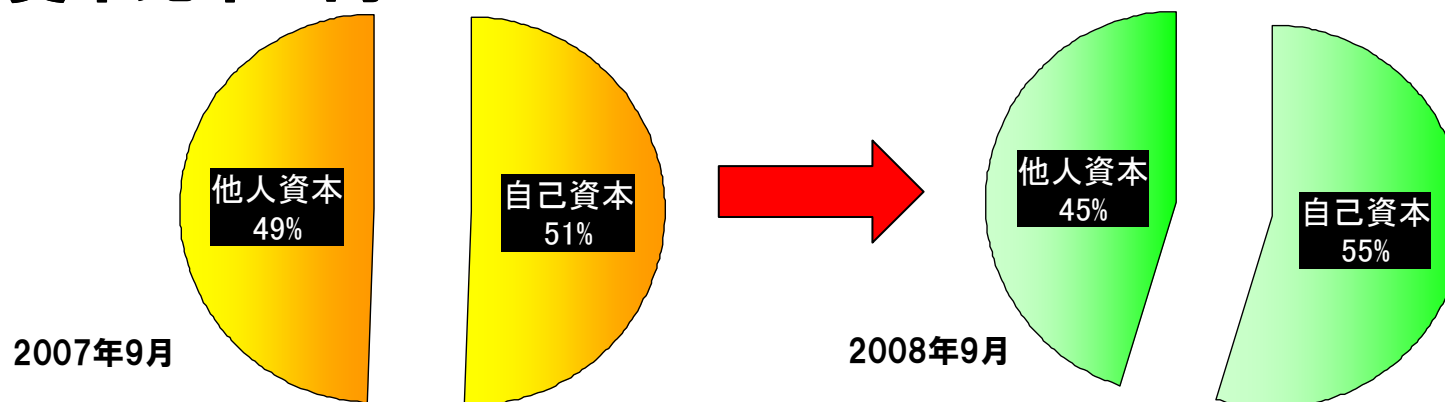
- APFグループと共同で行った短期投融資により余剰資金を活用、今期の営業利益は23百万円となり収益の安定に貢献

財務の健全性向上

①負債の減少



②自己資本比率の向上



「継続企業の前提に対する疑義」が解除に

■ 今期決算の結果

- 各利益項目の黒字化
- 営業キャッシュフローがプラスに
- 財務体質の大幅な改善



**「継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる事象」
の注記は解除へ**

今後の財務面の課題

■ 投資資金需要の増加

- 経営状態の改善を背景に事業活性が向上
 - ・ コンテンツ事業での作品投資機会の増加
 - ・ 投資育成事業における投資活動
 - ・ 経済環境の変化を受けてM&A投資機会が増加

■ 財務資金需要の増加

- 2009年9月下旬に償還となる社債への対応



今後の事業展開上、投資効率の高い案件への投資継続は重要
株主価値の継続的な拡大を基本としながら
事業機会の活用を担保するファイナンス戦略が求められている。

2009年9月期の 業績予想について

2009年9月期連結業績予想

(単位:百万円)

(連結業績予想)	2009年9月期 (予想)	(参考)2008年9月期	対前年比
売上高	2,400	2,139	112.2%
営業利益	100	62	160.5%
経常利益	250	146	171.0%
当期純利益	230	81	282.1%

- 今期の作品投資の回収が見込まれる映画・映像事業の売上向上、体質改善を進めた物販事業でも売上回復を見込む
- 収益性の高いカードゲーム事業の好調維持、投資育成事業の収益拡大で、営業利益も引き続き増加へ
- グループリース社の持分法適用利益は通年で適用され、経常利益、純利益を大幅に押し上げる見込み

売上の回復と利益の大幅な増加を見込む

2009年9月期個別業績予想

(単位:百万円)

(連結業績予想)	2009年9月期(予想)	2008年9月期(参考)	対前年比
売上高	675	898	77.1%
営業利益	77	90	85.5%
経常利益	84	104	80.7%
当純利益	126	97	129.8%

- たのみこむ事業、アニメ事業などを子会社に譲渡した結果、売上高は減少
- 事業譲渡による収益の移動と本部の経営管理・支援体制強化に伴う販管費増加で、単体営業利益、経常利益は減少
- 経営管理・支援を通じた子会社の業績回復で貸倒引当金が戻入益となり、純利益は増加

**事業再編を通じた連結経営の推進で純利益を増加、
より強固なグループ経営体制へ**

ご清聴ありがとうございました

弊社IRに関するお問い合わせ先

株式会社ウェッジホールディングス
経営管理本部

TEL: 03-5217-0721

FAX: 03-5217-0722

wedge-ir@wedge-hd.com

* 本資料には将来に関する記述が含まれていますが、これらの記述は将来の業績を保障するものではありません。また、本資料の内容に関しては未監査であり、その内容の正確性および確実性を保障するものではありません。